

## 令和7年度 久留米市文化芸術振興審議会 第3回会議（要旨）

### 1 開催日時

令和7年10月8日（水）10時～12時10分

### 2 会場

久留米市美術館 本館1階多目的ルーム

### 3 出席委員（名簿順）※7名

木藤委員（会長）、内野委員（副会長）、井原委員、入江委員、翁委員、西依委員、矢次委員  
（欠席：片山委員、日下部委員、前原委員）

### 4 事務局 ※9名

市民文化部 文化芸術担当部長 田代部長  
文化芸術担当次長 陣内次長  
文化振興課 箔谷課長、中山課長補佐、古賀主査  
文化財保護課 井上課長  
久留米シティプラザ事業制作課 山田課長  
久留米シティプラザ総務課 江越課長補佐

※他に、（公財）久留米文化振興会より1名同席

### 5 議事次第

#### 1 開 会

#### 2 議題審議

（1）次期久留米市文化芸術振興基本計画の原案について

#### 3 その他

#### 4 閉 会

## **議事録**

### 1 開 会

■ 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。

### 2 議題審議

（1）次期久留米市文化芸術振興基本計画の原案について

■ 事務局より資料1に基づき、原案の全体構成を、前回からの修正点を中心に説明。

○ 内野副会長

- ・ 4章の「目指すまちの姿」で、「誰もが暮らしの中で文化芸術に触れ、喜びや楽しみを感じられるまち」は、「触れる」とすると、鑑賞を主にとらえているように見える。文化芸術活動に携わる「創る」人もいたので「創る」の文言を入れてもいいのでは。

● 事務局

- ・ 「触れる」は、意味合いとしては鑑賞と活動が含まれるものとしている。「創出」の意味が伝わりにくいということで、その点は検討したい。言葉は市の総合計画の、基本構想の全体像と合わせている。

○ 翁委員

- ・ 章立ての順番は読みやすくなったが、2章のアンケート部分が長く、3章の計画にたどり着きにくい。もっと短くていいのでは。久留米の文化芸術はいい、アンケートの課題はある、と確認して、すぐに計画の内容に行けるといい。

● 事務局

- ・ 全体のバランスを考えたいと思う。

○ 矢次委員

- ・ 久留米市の文化が何なのかということが、前・前々計画から5年、10年経って変わらないことはないと思うのに、計画案上ではあまり変わっているように見えない。市の文化が成長し、変わったことを分かるように書いてほしい。決して固定されたものではないと思う。

○ 井原委員

- ・ 同じ意見になるが、調査結果は簡略化した方がいい。読むのに疲れてしまう。最初の1章に久留米の文化があるのはインパクトがあっていい。そして、矢次委員が言われたように、市がこれから力を入れることを記載しては。文化創造都市に久留米も参加していると思うが、全国的な広がりの中で市は長くやっているということも、どこかに記載があるといいと思う。

---

■ 事務局より資料2のうち、第1章、第2章について説明。

● 事務局

- ・ 原案に掲載した画像はまだ仮のものであり、今後掲載すべき画像を選定していく。

○ 木藤会長

- ・ 先ほど2章のアンケートの調査結果の分量が多い、簡略化すべきという意見があったがどうか。

○ 入江委員

- ・ どこか省くかということになると、「人口動態」のところは、文化とつながって見えないので、必要だろうか。アンケート調査は見せ方と思うが、見出しを付けて、グラフから何を読み解くかということを、1行で触れるだけでいい。文章を省いてもなかなか読んでもらえないと思うので、調査結果の肝を明確に見せられるといいのでは。
- ・ また、1章で文化を前に出して「久留米市には全国的にみても稀な恵まれた文化的環境があった」

としたのはいいと思う。ただ、「文化的環境」以外のところは前期の計画と内容が変わっていない。石橋正二郎氏はもちろんだが、第九公演など、その前からの歴史や土壌があって久留米の文化が発展してきた経緯があると思うので、そうすると時系列で記載してもいいのかもしれない。個人的な意見だが

○ 木藤会長

- ・ 人口動態の記載は必要だろうか。

○ 矢次委員

- ・ 人口動態のところは、私は気になっていたのもあっていいと思う。人口構成が変わってきていることは、文化でも外せないと思う。それで絵画や文学などに携わる人たちも変わっている、などあるかもしれない。

○ 西依委員

- ・ 自分は茶道をやっているが、最近若い参加者が減っている。コロナで茶筌を作る職人もやめて作り手がなくなっている。抹茶だけが海外向けに価格が高騰している。人口が文化にどう影響するかよく分からないが、こうした身近な変化は感じている。

○ 木藤会長

- ・ 6 ページ（１）（２）の裏付けとしては、人口動態は半ページ弱の分量でいいかもしれない。

○ 入江委員

- ・ 6 ページ（１）（２）と、もっと文章でつながるように見えるといい。

○ 翁委員

- ・ 調査結果は事実として記載されているが、「それで？」とってしまう。調査結果は巻末に持って行って、調査結果を受けて「こう思った」という解釈のみ、前に出すといいのでは。計画までの流れが阻害されないようにした方がいい。市民にも分かりやすい計画にしたい、という話だったと思うので、7 ページから 15 ページは 7 ページだけにして簡略化し、後は巻末にして。そうしないとこの分量を読み通して、事実を読み解く力が相当必要となる。
- ・ 市のアーティストも、どういう人がもっと分かるように、作家の代表作など見えるといいのでは。
- ・ 野外イベントも今あちこちで開催されている。室内だけでなく、そういう変化のあったイベントの画像を入れると新しさが出るのでは。
- ・ 古墳の写真はいいが、古代と戦後からの話につながるいい写真がもう少しあるといい。
- ・ アンケートの調査結果のグラフは上位のものだけにするなどして、巻末でいい。

○ 木藤会長

- ・ 青木繁の代表作とか、作品の画像が出せるといい。しかし、顔写真と作品の両方だと、分量が多くなるか…。

○ 内野副会長

- ・ 人口は減っていて、その中で文化の状況も変わってきている。過去の歴史は把握しなければいけないが、これからは若い人たちを意識しないといけない。美術の分野では、この計画が一般市民に出ていくとなると、「青木繁・坂本繁二郎がすごいんだ」ということになる。今は美術の流れも変わってきている。「青木・坂本がすごい」と、過去のままで止まっているので、対外的なアピールでも「過去にこういう人がいる」で止まってしまう。スポーツではブレイキンなど、昔だったらこれがスポーツか？というものが今注目されている。アーバンスポーツも 20 年前はスポーツ

とは言えなかった。文化をこれから支える、今の活動への視点が必要ではないか。

- ・ 8 ページの②では 22.1%と過去最高になっているのに、14 ページでは「活動したことがない」が R6 年度で最も多くなっている。これはどう解釈すればいいのか。数字に頼ることはできないのでは？

○ 井原委員

- ・ 7 ページの人口動態のグラフは、時評の取り方に差があるし、ややショッキングに見える。市民が見た時に「人口は減っているのに外国人が増えている」と誤解が生じるのではないか。
- ・ くるモニと市民意識調査が続けて記載されているが、調査の母数が全く違うので、一緒に出すことには戸惑いがあると思う。「これまでの調査でこのような結果がでているので、このような次期計画にします」というストーリーになるといい。
- ・ 通常はまず、アンケート結果の総括がある。細かいデータは参考資料という整理でいい。最初に総括を出して、それにデータをどうつなげるか、どうデータを絞るかは事務局に考えてもらって。丁寧にデータを出されてはいるが、皆がこれらのデータを理解できるわけではないだろう。

○ 矢次委員

- ・ 自分もそう思う。データ分析からの総括が大半で、審議会で気に掛けるべきところだと思う。第 3 章に入る時に「市民の鑑賞・活動が減った」となるが、本当は増えているかもしれない。スポーツのブレイキンのように、拾えていない鑑賞や活動があるかもしれない。やっていない方ばかり目がいつているように見える。
- ・ 新たな文化活動が、現在のアンケートでは対象にしきれていないのでは？設問の設定の仕方を変える必要があると思うので、そこらへんが総括に出てくるようにしては。

○ 木藤会長

- ・ 約 30 ページの半分がグラフというのは、やはり多すぎる、長いと思う。調査結果は 1 ページ、多くても 2 ページくらいに、という意見に同じ。図表はどこを外して、というのは難しいので全部取って、井原委員の意見のように総括を前に出して、残りは最後につめて書くと。「だから次にこう生かす」というまとめにして、そこまでの流れで 2、3 ページまでに整理してはどうか。

○ 翁委員

- ・ 定性的な言葉で整理してはどうか。「活動している人が 5 人に 1 人はいる」など、分かりやすい表現にして。それが他の自治体だと 10 人に 1 人になって、比べるといい傾向になるのかもしれない。どういう方向で市が頑張っていくか、そういうニュアンスが伝わるようになるといい。3 章がメインなので。

○ 木藤会長

- ・ 3 章につなげるために、調査結果を簡単にして、検討をお願いしたい。

● 事務局

- ・ いただいたご意見をもとに整理したい。

---

■ 事務局より資料 2 のうち、第 3 章、第 4 章について説明。

○ 矢次委員

- ・ 3章について、国の文化芸術の範囲を入れてもらい、分かりやすくなった。食文化はこの計画では外して、メディア芸術が入っているのは分かった。メディア芸術を入れることで、若い人たちの活動も見えていけるのではないかなと思うが、そういう意味でいいのかな。
- 事務局
  - ・ はい。例えばタブレットで絵を描いたり、パソコンを使って作曲をしたりする若い人たちもいるので、そうしたものをメディア芸術として計画の中で捉えていきたいと考えている。
- 翁委員
  - ・ プロジェクションマッピングは入るのか。その画像が入ると、活力があるように見えると思う。3ページの市民団体の活動のところに、野外フェスやプロジェクションマッピングの画像が入ると、新しく見えると思う。
- 木藤会長
  - ・ 今のご意見は、事務局で検討してほしい。
- 内野副会長
  - ・ 中央公園の《石声庭》の前で、そうしたプロジェクションマッピングのようなものを行っている。
- 翁委員
  - ・ 市がやっている取組かどうか、という区分があるのかなと思うが…。
- 木藤会長
  - ・ 1章の5の産業文化の後に、6で新しい文化があるといいかもしれない。
- 井原委員
  - ・ ニュースで見たが、久留米絃は、大学と協働でファッションショーをやっているのがいいと思った。そのファッションショーの写真を5の産業文化に入れて、活かされていることを伝えるといい。現代的な動きが出てくるように見える。
- 木藤会長
  - ・ 写真はまだ検討中ということだったが、久留米絃のファッションショーは久留米大学に問い合わせ、使用できるかもしれない。
- 内野副会長
  - ・ 地場産くるめでも、久留米絃のファッションショーをやっていた。
- 木藤会長
  - ・ 花火やそろばん踊りはどうか。
- 井原委員
  - ・ 川で花火をなかなか上げられなくなった。筑後川花火大会は大事にしてほしい。
- 木藤会長
  - ・ 祭りに出た人に、文化のアンケートをとってみるなどもいいかもしれない。祭りも考慮して正確に捉えるという意味では…。
- 翁委員
  - ・ 20ページの「計画の位置づけ」で、連携の矢印の下にある言葉は分野か、個別計画を指しているのか。SDGsはもう少し、各施策で意識できるよう見えるといい。指標が細かくあるので。
- 入江委員
  - ・ 「目指すまちの姿」は、総合計画の基本構想そのままなのか？

● 事務局

- ・ はい、少し端的にした言葉にしている。

○ 入江委員

- ・ では、「創造し」など入れるのはよいのか？

● 事務局

- ・ はい、それは可能である。

○ 翁委員

- ・ 22 ページの図はとてもいいが、⑤の説明中に「生まれる成果が、」とある。価値ではなく成果なら、図中にある「新たな価値観」や「まちの魅力」など4つの言葉を、次の23 ページの体系の下に入れた方がいいのでは。成果というと、ニュアンスなのか、実際の評価指標にするのか。成果軸として扱うことになるなら、22 ページと23 ページがつながるように見せた方がいい。

○ 内野副会長

- ・ 22 ページの図の⑤は、図の中心の「文化芸術」で終わるべきではないか。「楽しむ」で終わるように見える。

○ 矢次委員

- ・ ⑤で「成果」と書くから測りたくなる。「効果」などに言葉を修正したらいいのでは。

○ 井原委員

- ・ さらっと、「生まれる成果」を取ったらいいと思う。

● 事務局

- ・ 評価と直結する「成果」という意味ではなく、イメージに近い「成果」で記載していたので、修正したい。

---

■ 事務局より資料2のうち、第5章、第6章について説明。

○ 内野副会長

- ・ 26 ページの「(2) 若者の文化芸術活動を応援する」に「青木繁の顕彰」とあるが、そもそも市は、青木繁と坂本繁二郎を守ることが大事だが、そこから脱却しないのか。青木繁は河北倫明の研究で有名になったが、世界的には豊福知徳の方が有名。市の文化として青木を懸賞するのはいいが、新しいものを創るということではネックになると思う。「青木繁記念大賞ビエンナーレ」では、応募者や審査員が青木の作風を意識してしまっていた。「青木繁の(イメージの)公募展なら出品しない」という人もいる。事業名に「青木繁」が無い方が、色々な新しい作品が集まると思う。

● 事務局

- ・ 高校生美術公募展については、青木繁は市出身の代表的な洋画家で全国的な地名度があること、また、青木が若い時から活躍していたことから、高校生が目指す芸術家像にもなると考えて、現時点では青木の名前を入れている。市の事業として若者の文化芸術にどうアプローチしていくのか検討しているところである。

○ 木藤会長

- ・ 以前の「青木繁記念大賞ビエンナーレ」が終了して、代わりに高校生美術展となった。そのギャップを埋めるために「青木繁」がはいっているのだろうか。市では文学の分野では丸山豊の現代詩賞をやっていて、その終了後の代替事業はないようだが…。
- 矢次委員
  - ・ 29 ページにも青木繁があって、名前が出すぎのような気もする。副会長が言われたように、ジャンルが絞られて見える。あまりに過去の言葉が計画に出るのは、若い人を育てていこう、と言う時に支障があるのでは。「青木・坂本に頼りすぎ」と外から見えるのではないか。繰り返し青木の名が出なくてもいいと思う。
- 木藤会長
  - ・ 現状では、高校生美術展の名称は決まっているのか？
- 事務局
  - ・ 名称を含めて検討中。計画中の盛り込み方は、事業名とは別に考えたい。
- 西依委員
  - ・ 26 ページの「文化系部活動の地域展開」は、どういうものか。
- 事務局
  - ・ 国が進めているもので、久留米市でもスポーツ・文化の分野で、学校を含めた協議会をつくり、令和 10 年度までに休日の部活動を地域展開しよう、と検討している。文化系の部活動では、まず吹奏楽を地域移行できるよう考えている。
- 入江委員
  - ・ 32 ページの評価指標（１）（２）で固まっていないところは？ 検討中という話だが。
- 事務局
  - ・ （１）の全体指標は、総合計画で内容はほぼ固まっているが、現状値や目標値をどうするか、市民意識調査を使ってどのような聞き方をしていくのか、など詳細が決まっていない。また（２）の参考指標でも、方針毎の指標のほか、定性的な満足度のアンケートも併せて見ていったらどうかという意見もあり、検討中である。
- 入江委員
  - ・ 全体指標の「心豊かに～」は本計画の指標としては分かりにくいように思う。総合計画のこの言葉の中に、文化が位置づけられているということか。
- 事務局
  - ・ はい、総合計画の「心豊かに～」の中には、文化の他にスポーツ、歴史も含んでいる。
- 入江委員
  - ・ （２）の「楽しむ」の参考指標で、文化施設の利用者数は、プラザと美術館の合計だけでいいのか。それぞれの館の特性があって、利用者数も波があると思うが、合算する意味があるのだろうか。「活かす」の参考指標では、文化センターの来園者数は測ることができるのか。
- 事務局
  - ・ プラザと美術館は、市内文化施設の代表的な 2 施設ということで、その利用者数を参考指標に設定した。合算の数値のほか、プラザと美術館のそれぞれの入館者数や目標値も、内訳として記載したいと考えている。
- 西依委員

- ・文化センターの来園者数は、文化振興会において把握できている。正門を出入りすると自動的にカウントされるようになっている。

○ 矢次委員

- ・28 ページ「守る・つなぐ」(3)の「筑後川遺産登録制度を活用して」の、実際の取組がよく見えない。市民が主体として頑張って取り組まないといけないことだと思うので、地域が歴史遺産を守ろうとする気になるよう、その機運を醸成する、といった書き方になるほうがいいのでは。
- ・30 ページ1 (2)の「市外から人を呼び込む」は、頑張らないといけないと思うので、注目しているが、「連携中枢都市圏ビジョンとの連携」が唐突に見える。ここに書くべきことなのだろうか。どちらかという連携すべきなのは、5 ページ(4)にあるように、「観光と連携して人の流れをつくる」となる方がいい。市外からの考え方は、観光を入れ込む必要があると思う。

● 事務局

- ・30 ページ上段では、「特に観光との連携においては～」と触れていた。ご指摘の部分で唐突感があるのは、整理したい。
- ・28 ページの「筑後川遺産登録制度」の活用は、ご指摘のように主体はあくまで市民、団体であり、市はその支援が役割。協働でやっていくものなので、市民と市の役割が分かりにくいところは整理したい。

○ 翁委員

- ・「久留米広域連携中枢都市圏ビジョン」についても、筑後川遺産登録制度のように、「※～」の説明書きが必要だと思う。

○ 井原委員

- ・前回、5 ページの国の動向の変化(3)「障害者による～」をふまえた基本施策が入っていない、と話したが、今回は25 ページ(5)で入ったのはとてもいいことだと思う。欲を言えば、「人」に注目して、「楽しむ」施策の展開の(5)が(1)に持ってくると見せ方がいいのでは。力を入れている、と見える。(5)にあると、何か付け足しているように見える。
- ・23 ページは、基本施策ごとに番号をふると、見やすくなると思う。全体的には、よく練られた内容になったと感心した。

○ 木藤会長

- ・言葉づかいのことになるが、「取組」「取り組み」など送りがなの付け方の統一を。
- ・30 ページの基本施策2で「久留米文化振興会は、本市が文化芸術政策を推進していく上で車の両輪となる重要な存在」とあるが、両輪(市と文化振興会)が何を指しているか分かるように。

3 その他

- 事務局より資料4に沿って、今後の策定スケジュールを説明。

4 閉会

以上